

大津 歴博 だより

大津市民憲章制定50周年記念
大津市埋蔵文化財調査センター開設15周年記念

2011
No.84

地中からの贈りもの — 遺跡が語る大津 —

平成23年7月23日(土)～8月28日(日)



装飾須恵器蓋 古墳時代後期 袋1号墳

大津市教育委員会保管



大津市歴史博物館

地中からの贈りもの ― 遺跡が語る大津 ―

近江の地名は古代の都に近い淡い海（淡水湖・琵琶湖）がその語源といわれています。琵琶湖の周辺では、はやくも旧石器時代には人々が住みはじめ活動していたそうです。以来、人々のあゆみは琵琶湖や周囲の山々と深くかわりながら展開してきました。そして、これらの生活の跡は大地に刻まれ、遺跡として地中に眠っています。現在、大津市内には貝塚・古墳・窯跡・集落跡・城跡など約四〇〇カ所のバラエティーに富んだ遺跡が分布しています。それらのうち重要な遺跡については国指定の史跡として保存が図られています。

主な遺跡を概観してみると、縄文時代早期の石山貝塚（約六〇〇〇年前）や中期の粟津湖底遺跡ではセタシジミやトチ・ドングリなどの動物・植物遺体から季節に応じた食料の獲得がなされていたことや、晩期の滋賀里遺跡では一〇〇基を超える土坑墓や甕棺墓が群集して埋葬されていたことが分かりました。出土した石山式・滋賀里式土器はいずれも近畿地方の標識となっています。弥生時代の南滋賀遺跡の方形周溝墓はその用語の由来となり、後期の高峯遺跡や部屋ヶ谷遺跡などは高地に築かれた集落の特異性が認められています。古墳時代前期の首長墓である皇子山一号墳、和邇大塚山古墳、膳所茶臼山古墳などの前方後円墳や前方後方墳、中期の大和王権の規制を受けた木の岡古墳群や高峯古墳、そして後期になって比叡山東麓に群集して築かれた千基にも及ぶ古墳や、大壁建物、ミニチュアカマドなどの遺構・遺物は渡来人系関係遺跡として注目されています。白鳳期の天智天皇の大津宮、崇福寺跡や穴太廃寺、全国的にも珍しい側視形方形蓮華文軒瓦がみられた南滋賀廃寺などの古代寺院、大津市南郊の石山・瀬田・田上に営まれた保良宮・近

江国庁・石山寺・田原道（関津遺跡）なども見つかっています。室町時代に繁盛していた坂本の町屋跡群（坂本遺跡）や、室町・戦国時代の明智光秀の坂本城跡、京極高次の大津城跡、佐々木六角氏家臣の宇野氏の居城関津城などもみられます。

本展では、このように近年における遺跡の発掘調査で得た最新の出土資料を中心として左記のような展示構成で旧石器・縄文時代から江戸時代までの大津の歴史に迫るものです。

展示構成

- 石はすごい！（旧石器時代）
- セタシジミはうまい！（縄文時代）
- お米もうまい！（弥生時代）
- 渡来人がやって来た！（古墳時代）
- 大津に都がつけられた！（白鳳・奈良時代）
- 瀬田に県庁があった！（奈良・平安時代）
- 古代人は字がうまい？（奈良・平安時代）
- 町人も豊かに暮らしていた！（室町時代）
- 信長・秀吉・家康が城を建てた！（戦国・江戸時代）

会 期：平成二三年七月二三日（土）～八月二八日（日）
休 館 日：七月二五日・八月一日・八日・十五日・二二日

会 場：大津市歴史博物館 企画展示室A

観 覧 料：一般 八〇〇円（六四〇円）、高大生 四〇〇円（三二〇円）

小中生 無料

（一五名以上の団体、大津市在住の六五歳以上の方、大津市内在住の障害者の方の割引料あり）

主 催：大津市・大津市教育委員会・大津市歴史博物館・大津市埋蔵文化

財調査センター・京都新聞社

関連行事 関連講座(タイトルは変更する場合があります)

■ 七月三〇日(土) 「大津の城と城下町」

松尾信裕 (大阪城天守閣館長)

■ 七月三一日(日) 「瀬田橋の戦いと大津宮」

「壬申の乱」から見た石山・膳所地域」

松浦俊和 (大津市埋蔵文化財調査センター所長)

■ 八月一三日(土) 「考古学からみた近江の渡来文化」

吉水真彦 (本館副館長)

■ 八月二〇日(土) 「壬申の乱と大友皇子」

「天智天皇の目指したもの」

井上満郎 (京都市歴史資料館館長)



重要文化財 袈裟襷文銅鐸 (石山寺蔵)



大津市指定文化財 鷗尾 (山ノ神遺跡・大津市教育委員会保管)



金箔五七桐文軒丸瓦 (大津城跡・大津市教育委員会保管)



大津市指定文化財 側視形蓮華文方形軒瓦 (南滋賀廃寺・近江神宮蔵)



ミニチュアカマド (太鼓塚B3号墳・大津市教育委員会保管)

第九二回ミニ企画展

大津・戦争・市民

■七月二日(火)～九月四日(日)

昨年度に引き続き、市内等に残された戦争関係資料によって、戦時下の大津と市民の様子について振り返ります。本年は、銃後の市民生活とともに、別所に駐屯していた陸軍歩兵第九連隊や、同じく別所の地に設置された陸軍少年飛行兵学校、また馬場の湖岸にあった天虎飛行研究所(訓練所)など、市内に所在した軍事関係施設についても紹介します。展示で扱う時代としては、第二次世界大戦前後に焦点を当てますが、第九連隊は、明治八年(一八七五)別所に駐屯して以来の歴史があることから、第九連隊の日露戦争従軍関係資料も、前史として展示します。また、天虎飛行研究所は、昭和(〇)年(一九三五)に設置された水上飛行機の訓練所ですが、その出身者の方たちから提供された当時の写真なども、パネルによって紹介します。

次に、銃後の市民生活としては、戦争への協力体制を教化するために使用された戦時教育紙芝居や国民学校の教科書、子供たちに戦争へのあこがれを持たせた、戦車や戦闘機の絵を描いた子供茶碗、政府からの通達などを記した町内会の回覧板、さらには、銃後の不自由な生活の象徴であった衣料切符や家庭用品購入切符、戦争遂行の費用調達に利用された戦時国債など、さまざまな資料を展示することで、あらためて平和の大切さについて学べるような展示とします。



天虎飛行研究所の訓練風景

第九三回ミニ企画展

新収蔵品展

■九月六日(火)～九月二十五日(日)

今回は平成二三年度に、購入及び受贈によって新たに当館に収蔵された資料の数を紹介します。それらのラインナップについては、八三号の「歴博だより」です。すでに写真で紹介しましたが、実物資料の持つ迫力は、見る人に新たな発見をもたらせてくれることでしょう。

今回の購入資料の二つの特徴としては、江戸時代後期の浮世絵師として知られる歌川広重の東海道五十三次シリーズが含まれていることです。広重は生涯に二十数種類の東海道シリーズを世に送り出していますが、そのなかの代表的な作品である、隷書、行書、狂歌入り各シリーズのうちの東海道五十三次の大津宿の図が、級資料として挙げることで、大津宿の風景、行書版と狂歌入りの東海道では、石場港の風景が描かれており、江戸時代の大津の風景を彷彿とさせてくれます。是非ご期待ください。

一方受贈資料としては、現在、都市計画道路の開通によって風景が一変した、大津赤十字病院周辺の古絵図。これは市内の風景の変遷を跡づけることのできる貴重な資料です。

また、明治天皇の皇后が東京から京都まで行啓したときの記録には、大津宿での行程も詳しく書き込まれています。その他、平野二目、西光寺の大きな屋根瓦など、バラエティーに富んだ資料の数々をご覧ください。



歌川広重 東海道五十三次のうち大津(隷書東海道) 江戸時代

この秋、「神仏います近江」展を 開催します。

近江の国は、神像、仏像の宝庫と呼ばれています。それは、比叡山延暦寺や園城寺、日吉大社をはじめとした全国的に著名な大寺院、大社が数多く鎮座していることと無関係ではありません。都と地理的に近く、歴史的な役割を長年担ってきたこれらの寺社があるからこそ、各時代の最新で最高峰の宝物が造られ、満たされてきたのです。近江の宗教文化が質と量ともに全国屈指であるのはいまでもありません。

それに加えて、県内の各地域、在所には、その地の生活や伝統と一体となっているお寺やお社が、こちらにも数えられないほど存在しています。つまり、これらの寺社は、滋賀県民の文化そのものと直結しているわけですから、まさに宗教的に現役の神仏といえるでしょう。今も生きた信仰によっていますから、神像や仏像が現在も大変多く伝えられているのは当然なのです。

このように多くの神々、仏さまに護られた国、近江。まさに「神仏がいます国、近江」というわけです（※「います」は、「坐す、在す」と書き、「いらつしやる」という意味です）。今なお、多くの人々を魅了してやまない、これらの仏教、神道、さらに神仏習合の美術は、先祖の営み、思想を今に伝えてくれ、今我々が生きている証を感じさせてくれるものです。

今回、信楽のミホミュージアムと、瀬田の滋賀県立近代美術館、そして当館が合同して、「神仏います近江」展を開催します。市立と県立、私立の施設が合同で行う展覧会は全国的に見ても珍しく、新しい試みです。三館それぞれがテーマに沿い、個性と特色を出しながら、協力して近江の神仏について展示を行います。タイトルと会期は次の通りです。詳細は次号でお知らせします。

第Ⅰ部 信楽会場 ミホミュージアム

「天台仏教への道」

九月三日（土）～十二月十一日（日）

第Ⅱ部 瀬田会場 滋賀県立近代美術館

「祈りの国、近江の仏像―古代から中世へ―」

九月十七日（土）～十二月二〇日（日）

第Ⅲ部 大津会場 大津市歴史博物館

「日吉の神と祭」

十月八日（土）～十一月三日（水・祝）

当館では、日吉大社東本宮御鎮座二一〇〇年を昨年迎えたことを記念して、湖国三大祭の一つとされる山王祭と、近江の神像について展示を行います。

展示構成（予定）

1. 神々のすがた
 1. 神像の美
 2. 日吉の神のかたち
 3. 山王曼荼羅の世界
 4. 山王信仰
 5. 山門焼き討ちと日吉社の復興
- Ⅱ. 日吉山王祭
1. 宗教都市坂本
 2. 描かれた祭・「山王祭礼図」
 3. 山王祭関係資料



けんぼんちやくしよくひよしさんのうみやまんだらづ
絹本著色日吉山王宮曼荼羅図 室町時代 日吉大社蔵



ひよしさんのうさいれいづ させき
日吉山王祭礼図(左隻) 江戸時代 当館蔵

大津歴博だより No.84
平成23年6月24日

大津市歴史博物館
〒520-0037 大津市御陵町2-2 ☎ (077) 521-2100
ホームページ <http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp>